



# 草のよしだやかから版

2021年 早春号

VOL32



陽射しが暖かくなり、春がそこまで来ているのを感じます。いつもはあまり意識することのない足元の小さな植物が、いち早く動き出しています。春の始まりに水色の花を咲かせる「オオイヌノフグリ」、白い星形の小さな花をつける「ハコベ」、タンポポにシロツメクサ・・・季節を間違えず咲く姿に元気をもらいます。

お庭の樹木も春からの芽吹きに向けて準備中。硬い冬芽から動き出す日々のわずかな変化を観察するのも楽しいですよ♪



吉田 龍

ガーデニング専門学校の講師をしています！

## お手入れの話:

### 庭木・花木の話

早春の花木で（ロウバイ、ウメ、ツバキやサザンカ等）花が終わり、実を楽しまないものは、全体の形を見ながら徒長枝や混み合った枝を剪定し、樹形を整えます。また、芽吹き前のこの時期は思い切った強剪定も可能です。切り跡の傷みも少なく、新芽が吹いてくるので傷も目立ちにくくなります。ただし、春咲きの花木はすでに花芽が出来ているので、確認しながら剪定します。花木や実をならせる庭木には寒肥もしてくださいね。

### シンボルツリーなどの下草の話

シンボルツリーや庭木の根元にバランスをとるように植える低木や地被植物（グラントカバー）、宿根草を総称して下草と呼んでいます。

デザインの的にも全体のまとまり良くなり、真夏の直射日光や西日による地面の乾燥や地温上昇を防ぎます。また、落葉樹の根元付近に常緑樹の下草を植えると冬枯れの季節も景観が保てます。

下草を花壇や植栽マスに植えることで空間が整理され、お手入れがしやすくなりおすすめですよ♪。下草にはお手入れの手間が余りかからず、長期間楽しめる植物を選んで下さい。

弊社では下草類を多数取り扱っておりますのでお気軽にご相談ください。

裏面に下草の一例があります→